日本行動計量学会会報
第 25 号
1982年1月20日
日本行動計量学会
運営委員会広報係
（〒106）東京都港区
南麻布4－6－7
統計数理研究所内

行動計量学での課題

浅野長一郎

新春が芽出たいのは子供ばかりで、大方の人達は「新年こそ…」と意を固め、すでに何らかの活動に入っておられるに相違ない。

それにしても、事象の推移を時間区間で特徴づけるのに「時代」と云う言葉があるが、近年ほどこの「時代」が短命に使われることはない。予期以上の速さで、世の中が急激な展開や反応をみせ、多くの既成の事実に遭遇して驚くことがしばしばである。

この変貌は単に国内のみならず、国際的にも、世界がますます狭められ、一面に地球人口の増加もあって、相互の生存と繁栄のために、諸般にわたり国際協調や摩擦が喧伝され、しかもその中に諸種の国益が策定される現状にある。

この目まぐるしい近代化と呼ばれる社会的変容は、もちろん個別科学の進歩によるが、同時に電子技術を背景とした急激な情報処理の進展と情報化社会の形式に負うところも少くはない。そして、このような情報化社会の中で新年を迎えながら、人間の思考と活動が次第に新しい合理性・秩序・慣習・法則を生み出し、やがて人類の思想や行動の上で知らず識らず変革をみせているのにちがいない。

とは云え、最近にも日本や中国で発掘された遺跡などでみる人間の社会的生活感情には、民族の風習や文化に多少の差異はあっても、太古と現代に多くの共通したものを垣間見ることがある。人類の本質的な思考や行動には、昔も現代もそれ程に変っていない側面の多いことも知らされる。

われわれが従事する自然科学の研究開発や多くの人が働く産業での努力が、終局的には人間の幸せに連結することを期待する視座からは、どのように人間と人間社会を変えていくことになるか大きな問題であろう。

行動計量学は、もちろん多くの領域を含むのであるが、右記の観点から非常に重要な意義をもっている。すなわち、直接的には医療とか心理などの対象領域とかモデル領域に、さらに、多変量解析論とかデータ解析論・意志決定論・情報処理システム論など多彩な方法論分野を交叉し、通常は現象解析や方法論の研究を目的とするが、とくに行動計量学はそれらを介して、人間の中に潜在する本性とか思考概念やそれらにもとづく顕在行動について科学的に解明する直截的中心的学問と考えるからである。現代から将来にわたる種々の環境条件のもとで、変貌する人間の科学的研究について行動計量学は重要な使命を荷っている。

世界が狭くなり、国益と国際協調が益々複雑化する昨今にあって、人間の精神と身体的健康、安定な生活内容、不測事態下の行動などとともに、特異な環境・宗教・思想における民族性や国民性などの研究が一層潜在的深層に及ぶことに期待したい。実は、私が十数年前より因子分析などに興味をもち出したのは、精神医学を通じたこのような動機で人間に関心をもったからである。（日本行動計量学会理事・九州大理学部教授）

学会事務の形態が変更

前号で予告したように、会員向のサービス事務が変りました。変更の詳細は**2ページと3ページの特集記事**をご覧ください。会員の皆さんに、もっとも関係の深い内容です。**必読のうえ、保存してください。**お願いします。

お願い

学会事務（会員向）が変りました

前号で予告したように、学会事務の一部を（財）日本学会事務センターに委託し、会員へのサービス窓口をつぎのように改めました。窓口が多元化しましたが、ご理解とご協力をいただきたくお願い申しあげます。

〔学会費の納入〕

学会事務センターから会員個人に年度会費の請求（振込用紙の送付）がまいります。

1. 振込用紙に印刷された金額を3ヶ月以内に納入してください。なお、未納分があれば、それを加算した額が印刷され、明細が表示されます。また、少額でも先納分のある会員には、年度会費からそれを差引いた金額の請求がいきます。
   また、先納金額が年度会費と同額以上の場合には、請求がいきません。帳簿上で会費相当額が減算されます。
2. 振込用紙は、郵便局と銀行の両方で使用できます。
   郵便振替による場合は、学会事務センターの口座（東京九－五五二四七）へ振込むことになります。また、銀行送金の場合は「三井銀行上野広小路支店」の学会事務センターの口座に振込まれます。このとき三井銀行の本・支店から振込むと送金手数料はいりません。その他は手数料を要します。
3. 会費以外の支払いを、これに加えて送金することは許されません。もし、これをすると、会費の先納分として帳簿上に記録されるだけに終ります。
4. 請求に対して納入が遅れると何回も催促されます。
5. 年度会費の納入請求は、原則として、3月上旬に行います。
   従来は、当該年度の4月上旬でしたが、一ヶ月早い前年度の終了期になりました。
   なお、年度会費は、五十七年度から、正会員は五千円、準会員は三千五百円になりました。

〔所属・住所などの異動連絡〕

所属や住所に変更があった場合は、つぎの要領で、学会事務センター（別表）へご連絡ください。

1. 必ずハガキによること。（電話は不可）
2. あて先は、日本学会事務センター、日本行動計量学会係。
3. 本人氏名と会員番号（後述＊）を明記する。
4. 異動内容を十分かつ正確に書いてください。
   ①新しい所属と旧所属を対比させて記入する。内容は、所属先の名称、郵便番号と所在地、電話∧市外局番と番号∨
   ②新しい自宅住所と旧住所を並記する。内容は、郵便番号と住所、電話∧市外局番と番号∨
   ③新しい連絡先が「所属」か「自宅」かの別を記入すること。
5. 異動連絡は、記載が不十分だと受付けてもらえません。

＊∧会員番号について∨

個々の会員への郵便物のあて名の氏名欄の右下に印字されているコード番号で、たとえば、096-944-0441のような全10桁の数字です。

会員番号の記載を欠くと、事後の処理が遅くなります。

〔学会誌などの発送〕

学会誌などの郵便物は学会事務センターから会員へ送られます。

1. 郵便物の不着に気づいたときは（たいていは住所変更の連絡を怠った場合ですが）、学会事務センターへ、大至急、異動の連絡をしてください。残留分の郵便物がまとめて送られます。

〔入会・退会の申込み〕

本学会への入退会の受付も、学会事務センターで扱います。

1. 新たに本学会への入会を希望する方の手続は、原則として、つぎの順序になります。
   ① 入会希望者が、ハガキに住所・氏名を明記の上、学会事務センターへ入会申込書を請求する。（電話は不可）
   ◎ センターが申込書を送る。
   ② 申込書に必要事項を記入して事務センターに返送する。
   ◎ 学会の資格審査が終ると事務センターが会費の請求をする。
   ③ 希望者が会費を振込む。
   ◎ 事務センターから入会年度の既刊学会誌などを送る。

   以上のとおりですが、従来の手続と比べて、やや時間がかかると思います。ご了承ください。
2. 退会希望者は、氏名と会員番号を記して事務センターに連絡する。ただし、会費未納のときは請求がいきます。

学会事務センター関係	
学会費の納入 所属・住所の異動連絡 学会誌などの郵便物受領 入会・退会の申込み	〒113 東京都文京区弥生２－４－16 （財）日本学会事務センター，日本行動計量学会係 （℡03－815－1903） 振替（東京９－55247，日本学会事務センター）
学会誌への投稿	
Behaviormetrika への投稿先	〒305 茨城県新治郡桜村，筑波大学　社会工学系 松原　望あて　（欧文誌編集幹事）
行動計量学への投稿先	〒153 東京都目黒区駒場２－19－１，大学入試センター 研究部気付　池田　央あて（和文誌編集幹事）
刊行物等の購入方法	
Behaviormetrika 購読	〒101 東京都千代田区猿楽町１－２－１ 日本出版貿易㈱（℡03－292－3751）
行動計量学の購読	〒101 東京都千代田区西神田２－４－６ 南窓社　（℡03－261－7617）
大会発表抄録集の予約購入	大会実行委員会の“大会案内”の指示による
講習会テキストの予約購入	講習会担当運営委員の“お知らせ”の指示による
以上のバックナンバーの 購入・照会 投稿用原稿用紙の購入 （和文誌）	〒153 東京都目黒区駒場２－19－１，大学入試センター 研究部　岩坪　秀一（事務局担当） （℡03－465－3946） 振替（東京８－148056，日本行動計量学会）
海外会員・賛助会員 に関する業務・連絡	事務局担当（大学入試センター研究部，岩坪秀一）
対外関係（学術会議， 他学会，外国など）	学会の公的な住所（統計数理研究所）

〔学会誌への論文投稿〕

従来は、学会事務局が受付窓口でしたが、今後は直接、各編集責任者あてにお送りください。

1. ①欧文誌の投稿先は、筑波大学社会工学系・松原望氏（欧文誌編集幹事長）
②和文誌の投稿先は、大学入試センター研究部気付・池田央氏（和文誌編集幹事長）
2. 投稿は、執筆要領の指示を厳守すること。執筆要領は、欧文誌はウラ表紙のウラ、和文誌はオモテ表紙のウラにあります。
3. なお、和文誌への投稿は学会専用の原稿用紙が必要です。代金は一冊（五百字詰、五十枚）三百円。他に送料（二冊まで、三百五十円）が加わります。購入は、従来どおり郵便振替（東京八－一四八〇五六、日本行動計量学会）でお願いします。

〔大会発表論文抄録集・講習会テキスト・学会誌などの購入〕

1. 大会発表論文抄録集の予約購入は、大会実行委員会の〝大会案内〟に従ってください。
2. 講習会テキストの予約購入も〝講習会のお知らせ〟に従ってください。
3. 会員以外の個人や法人が、学会誌の購読を希望する場合は、①欧文誌は「日本出版貿易㈱」②和文誌は「南窓社」をご利用ください。両社の所在地等は既刊誌の表紙ウラ、または奥付を参照してください。
4. 以上の刊行物（大会抄録集、講習会テキスト、学会誌）のバックナンバーの購入は、学会の事務局担当者（大学入試センター・岩坪秀一氏）が受付けます。この場合の送金は、郵便振替（東京八－一四八〇五六、日本行動計量学会）を原則としますが、大学・会社等の購入で他の支払い方法を希望する場合は前記の事務局担当者に、文書でご連絡ください。現物の有無、価格等の問い合せも同じです。

〔その他の留意事項〕

今回の新しい変更は、国内在住の正会員・準会員に対するものです。海外在住の会員、賛助会員は別扱いで、連絡窓口は従来どおり学会事務局が担当します。

また、変更は学会内の運営を円滑に進めるための措置であり、本学会の公的な所在地は現行会則2条に記載される「統計数理研究所」で、これは変りません。したがって学術会議、文部省、他学会などの対外窓口は同研究所であることをご承知おきください。

〔ご協力ください〕

新方式は一見複雑そうですが、従来とあまり変りません。よろしくお願いいたします。（事務局）

会議議事録

◇理事会（五十六年十二月二日）於 統計数理研究所
出席者 理事 十一名

1. 野元理事より第十回大会の準備状況について報告。また、五十八年度の第十一回は、京都大学で開催することとした。
2. 運営、編集、刊行物の各委員の委嘱を、担当理事の原案どおり決定した。
3. 各種委員会、事務局報告。

今期の各種委員が決まる

先の理事会で、運営、編集、刊行物の各委員を、つぎの方々に委嘱することになった。任期2年。

◆運営委員会（二十八名）
［委員長］鮑戸弘（東大新聞研）
［副委員長］駒澤勉（統数研）、井上通敏（阪大医）、海野道郎（関学大社会）、江川清（国語研）岡太彬訓（立大社会）、梶谷文彦（川崎医大）、久保武士（筑波大医）、斉藤堯幸（北大文）、佐和隆光（京大経済研）、繁桝算男（東北大教）、杉山明子（NHK放送世論）、関田康慶（東北大医）高杉成一（東大医）、田栗正章（千葉大理）、寺尾浩明（帝京大医）、直井優（東大文）、中江公裕（独協医大）、中谷和夫（京大教養）、西川泰夫（上智大文）、林峻一郎（慶大医）、広瀬弘忠（東女大文理）、星守（千葉大工）、堀洋道（筑波大心理）、牧田亮（東大新聞研）、丸山久美子（青学大文）、村上隆（名大教）、山本真理子（都立大人文）

各職務の幹事はつぎの通りである。（○印は主査）
∧月例シンポジウム担当∨○杉山明子、広瀬弘忠、久保武士
∧講習会担当∨○岡太彬訓、直井優、牧田亮、丸山久美子
∧広報担当∨○江川清、林峻一郎、山本真理子
∧関西連絡担当∨井上通敏、梶谷文彦

◆刊行物委員会（六名）
［委員長］山本俊一（東大医）、
［委員］林知己夫（統数研）、岩坪秀一（大学入試センター）、松原望（筑波大社工）、安本美典（産業能率大経営情報）、柳井晴夫（千葉大人文）

◆編集委員会（次号の会報に掲載します）

"第十回大会"の準備すすむ

前回の会報でお知らせしましたように、第十回大会は、左記の要領で行われます。

◆八月二十五日(水)～二十七日(金)の三日間、国立国語研究所（東京都北区西が丘三―九―一四）にて、総会および研究発表・特別講演などが行われます。

◆八月二十八日(土)の午後は、「日経ホール」（東京都千代田区大手町一―九―五）にて、一般公開講演会を行うことになっています。これは、第十回大会を記念した特別行事で、会員は言うまでもなく、広く一般の人々をも対象とするものです（入場は無料）。

講演者として、統計数理研究所の林知己夫氏と国立国語研究所の林大氏の両氏にお願いし、ともに快よくお引受けいただいています。題目は未定ですが有意義なお話が聞けると思います。

なお、両氏の講演のあとに、映画「野うさぎをかぞえる」を上映する予定です。

◆会員多数の参加をお待ちします。

第13回講習会の記録

昭和五十六年十二月八・九日、南青山会館（東京）「〃数量化〃の新しい動向」、講師・林知己夫（統数研）、駒澤勉（統数研）、岩坪秀一（大学入試センター）、林文（統数研）の4氏。受講者四六名。

月例シンポジウム記録

○第二十九回〃薬と行動計量〃（オーガナイザー梶谷文彦・川崎医大、井上通敏・阪大医）
昭和五十六年十一月二十八日、阪大医学部病院、参加五〇名。

◎会員数（一月十日現在）
（正）九三四人（準）一三四人
（賛助）三〇法人

編集後記

▽学会事務の変更や各種委員が新しくスタートするなど、年が改まったのに合わせるように、当学会の活動も大きな節目を迎えたようです。

▽本号では、事務の変更に伴う学会の新しい事務連絡や手続きの方法について、一目でご覧いただけるように、見開きで記事をのせました。保存されると何かと便利かと思います。（山本）